

提言案に対する委員意見

| 委員名 | 意見等 |
|------|--|
| 岩原委員 | <p>「美の滋賀」のめざす方向性、その進め方については、ほぼ議論が集約されています。発信懇話会提言（座長試案）に明示されている内容に同意いたします。</p> <p>今後、具体的にどのように進めるかの道筋を示す必要があります。とりわけ県民に、どのように発信し、どのように理解されるのかが重要と思われます。これから数年（2～3年）の具体的な活動や「美の滋賀」の実現可能な取組例などを意識したうえで、発信するべきでしょう。</p> <p>「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活発化させることは、極めて重要なことではありますが、時間のかかる作業でもあります。その点、近代美術館の事業を見直し、新生美術館をつくることは、最も早期に実現可能な活動であると考えます。近代美術館とこれまでの資産（建物、収蔵品、等）を生かしながら、仏教美術、アール・ブリュット、琵琶湖の美などを新生美術館の核として、新しい美術館を開館する覚悟が必要であると考えます。新生美術館を「美の滋賀」の芸術センターとして、ネットワーク、コミュニケーションの核にするなど、新生美術館の位置づけを早急に明確化するべきでしょう。早い段階で、「美の滋賀」の具体的な活動を目に見える形にして県民、県外に伝えることが重要であると考えます。</p> |

| 委員名 | 意見等 |
|-------|--|
| 長谷川委員 | <p>美術というのは本来目に見えないものを「見えるようにしていく」技です。</p> <p>美術はその時代を超える「通時性」と時代の感性を反映する「共時性」によって、人々に支持され、必要とされてきました。なぜ見えるようにする必要があるのか。記憶や文化、伝えられてきた精神や知恵を形にし、それを現在から未来へアップデートしながらつないでいくことによって、人は「現在」生をあたえられていることのミッション(使命)をまっとうすることができるのです。</p> <p>美術館は一つのシンボルであり、皆が集まって美術に出会い、これにふれて、語り合う事のできるパブリックスペースです。</p> <p>そこは開かれていて居心地がよいとどうじに優れた作品と出会う、新しい知にふれることゆえの緊張感の在る場所です。そしていろいろなものがそこで生まれ、「形」として見えるようにされていきます。出版やデザイン、あるいは人材など。町中や学校、役場などいたるところに出会いの可能性はあります。でも美の技へのリスペクト、そしてこれを後世につたえるというミッションはある一定の条件をもった空間を必要とします。</p> <p>いま日本に欠けているもの、そしてこの国を次代につないでいくものは、ヴィジョン、ミッション、パッションの3つです。これをつくりだしていくためのきまったお手本や方法はありません。</p> <p>美の滋賀のプロジェクトは、明らかにこの3つに向けられています。目先の目標ではなく、もっと大きなものにむかっています。</p> <p>もてる文化資源、自然資源をどのように再構成するか、どのような組織やインフラが必要か？</p> <p>そして子どもを育てていく若い家族にどのような文化環境をあたえられるのか？そんなシンプルなところにたちもどって、今回の提案はつくられています。</p> <p>この方向を皆さんで守り、支持していただけることが大切と思います。</p> |

| 委員名 | 意見等 | |
|------|---|--|
| 保坂委員 | <p>P 3 (1) 滋賀らしい「美」の発信のあり方</p> <p>滋賀モデル(滋賀らしい美の発信のあり方)の視点</p> <p>地域で守ってきた美を見てもらいながら守っていく。</p> | <p>と重複している感じがあります。またの文の中でも「守ってきた美を守っていく」というように重複気味です。全部トルか、あるいはとの重複は目をつむって、「地域で守ってきた美を見てもらいながら育てていく」というようにするか、ご検討よろしく申し上げます。</p> |
| | <p>P 3 (2) 「美の滋賀」として編みなおす</p> <p>L 4 ~</p> <p>そして、それらはわたしたちの感性や感情を現在の経済成長に重きを置いた社会の周縁や外側へと導き、この社会や地域での暮らしにおいて一番大事なものは.....</p> | <p>ややネガティブにも聞こえますが、OKでしょうか。たとえば、「経済成長に重きを置いた社会から(適切な)距離をとることを可能にし」とか、そういう感じでどうでしょうか。</p> |
| | <p>P 4 (3) 具体的にどう進めるか</p> <p>県民や関係者とともに「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活発化させる</p> <p>L 2 4 「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活発化させるため、まずは、今回の編みなおしの要素である、神と仏の美術、アール・ブリュット、近代・現代美術をはじめとした近代美術館の資産や、県内の美術館、地域や団体の美術活動、造形作家など滋賀の美に関わる全体を把握する。</p> <p>(中略)</p> <p>また、滋賀の自然と暮らしのなかには、日常的なものと超越的なもの</p> | <p>「ミュージアム」あるいは「美術館・博物館」とはできないでしょうか？ ジャンルを払う、と言っている以上、「美術館」に限定する必要はない、すべきではないと考えます。</p> <p>形をつくらない作家を排除するようにも見えるので、「作家」あるいは「アーティスト」ではダメでしょうか。</p> <p>「で」に修正してはどうでしょうか。</p> |

| | | |
|-------------|--|----------------------------|
| <p>保坂委員</p> | <p>P 5 L 1 【取組例】 ・県内の美術館・博物館、地域や団体の美術活動、造形作家アーティストなど滋賀の美に関わる実態を把握するとともに、この情報を活用して、県内で創作・発表・交流活動に取り組んでいる……………</p> | <p>左記のとおり修正してはどうでしょうか。</p> |
| | <p>P 5 新生美術館の事業活動の方向性</p> <p>新生美術館は、近代美術館の資産、仏教美術、アール・ブリュットを中核とし、既存のジャンル分けにとらわれず、過去から未来までの美を編みなおす中から、滋賀の美の魅力や価値を社会に伝える。</p> <p>美術の初心者や子ども達をはじめ幅広い層が、美と出会ったり新しい体験をできたりする機会を提供するとともに、新しい形の社会的な広場として、美を通じて人が集まり交流を行う中から、新たな美や新しいコミュニティが生まれる、これまでにない形の社会的な広場となる。</p> | <p>左記のとおり修正してはどうでしょうか。</p> |
| | <p>P 6 滋賀の「美」の魅力を県民自らが伝える舞台をつくる L 1 0 …………自己発見によって、県民同士をつなぐ新しいネットワーク、 L 1 4 【取組例】 ・県民の愛着や理解を促進するため、街中や駅、県庁など人々が行き交う、身近な場所で美作品や関連資料の展示を進めるとともに、滋賀の美に関する情報提供を活発に行う。 ・滋賀の美の魅力を多面的に学びつつ、次世代に継承する取組として、滋賀の美それを守り伝える営みの発信を進める。 (中略) ・県内外の美術館等での積極的な展示など、滋賀の美の認知度を高め、滋賀の美を訪ねるきっかけづくりを進める。 (中略) ・観光地や宿泊施設などに作品や関連資料を展示し、…………</p> | <p>左記のとおり修正してはどうでしょうか。</p> |